枕草子 九 十

例

太政官文庫
和書門
類
號
函
架
冊
三
二三四二
二二六
六

内閣文庫
和書
類
號
冊
架
函
三
二三四二
大
一
三三

共六

内閣文庫
番號 和 32342
冊數 6 (5)
函號 203 90

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

宮ゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

車とりて
又さつねさつねびごろ
内わらとつかうまつる
里ゆりてさしぬきの乃
表ゐるとりて
かづらき神とさう
ほうをさづけまそとを
さまの神葛城の神
ハ形をんぐうして貴の
仮をせでよるのみ格と
みられわしおほかの
ようくのみきりて
屋に退出ゆく
くまれそのまて
まそらぐ物わせくれば
さぐ格よとあみそと
ぬぐ物ぬとりばほかの
ゆぐをんばかとぐゆを
のくんとそのまく
物をとりをひ
定よほうよ地同を
ゆくをのくれ行の
くくくくくと

梅ある人ぐるまあくめでくとぬんさ
無さとしぬ宮ちてへうぐハわる人とうせ
てかりまくれとをどろくくまてぐ
まくわやくする嘘てハとくおどいうが
あるきぬぐきさの神をもぐ物おわせ
仮てくてまぬうてもそくてもそくとのを
みられわしおほかの
ようくのみきりて
屋に退出ゆく
くまれそのまて
まそらぐ物わせくれば
ぬぐ物ぬとりばほかの
ゆぐをんばかとぐゆを
のくんとそのまく
物をとりをひ
定よほうよ地同を
ゆくをのくれ行の
くくくくくと

いとりくくくくとくとき
とりみてくくくく

ちんの法ひのけのうえ流法火桶。梨絵と
梨地乃こびひるも
上らふれきうひ出のひ
くくもにちくく
上萬乃れくこ法陪臣
あくふ候し。中文の所
双錆るどす。人れば
法おちくくく
やもくくくと
法りのうめくさ。人と
の文づく別。進退安
あくど屠しさし
法ふとりつき。イ本法文
とりつぎ本。ておりや。
法ふハ中宮乃法封ん
河海。三宮。各五百戸。
義孝。九条戸ハ民戸。
戸とせくくしそれ
を封戸ともいく。愚按
今世の知行のこと

川乃火ちちくおこしてそれハ雑人を
ねど。笑ハぢん乃法火ねけ乃うえ出る
うむひくくおりまて。上らふれゆうるひ
出のひるゆにちくく乃ふはぎれる
あくふ候し。中文の所
双錆るどす。人れば
法おちくくく
やもくくくと
法りのうめくさ。人と
の文づく別。進退安
あくど屠しさし
法ふとりつき。イ本法文
とりつぎ本。ておりや。
法ふハ中宮乃法封ん
河海。三宮。各五百戸。
義孝。九条戸ハ民戸。
戸とせくくしそれ
を封戸ともいく。愚按
今世の知行のこと

長風炉裏
着無し
奥へうてし
車乃前所のこと
映の字し

このうくせうちうとれ
實ハ伊周乃ゆれども
ゆるる法文の所世
そて。ゆう。ゆ。ゆ。
とりとき。ゆ。ゆ。
さすぶふゆりきゆう
法ゆ川入ゆ。ゆ。ゆ。
せうりきハ我ゆ。ゆ。
法ゆふ所の法ゆう
ゆりきゆやとれ
ル法ゆのゆきとと
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。

ゆうとせゆうゆ
やとゆどすふ
ゆりきゆゆ。ゆ。
わゆふ入れ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。法ゆ
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

われとはづがとあるう
時分上る東續せどぞの
為なるべしわるゝ中ゝ但
去のく海をとも作ぶ
われもはづがとあるう
さは殺同一真名人を
人乃上の為なりうるべ
ゝさるし殺人の上
ともとうぞぜ作ると
きけばぼかのるし
さつりは愛他の為天
人うぞやさは是しとも
つくるべる人も
伝天の作るさは作る舞
をを作るくるも
いるりとけいとるか
いるでるいをひをぞん
とぼかりのゝ上るも
らるんすのゝ
伝をれれるれ悪盤和
安房乃作ひるり
るるごとするるるる

ちゝ物をやめ多ひ
ぞるわるゝひ無ゝぞわれとはづゝが
とあるゝるゝつる事なゝ殺上人乃うゝ
あゝゝすをきけゝぞ行いとてんげの為
天人あゝのあるきゝるゝやと見てて
ゝ作るゝるゝこゝひあれ月ゝゝれゝのゝるゝるゝ
ゝるゝるゝ作ゝるゝ
きけゝぼかのるし
さつりは愛他の為天人
うゝやさは是しとも
つくるべる人も
伝天の作るさは作る舞
をを作るくるも
いるりとけいとるか
いるでるいをひをぞん
とぼかりのゝ上るも
らるんすのゝ
伝をれれるれ悪盤和
安房乃作ひるり
るるごとするるるる

ぼかのるゝ作ゝるゝ
ゝるゝるゝ作ゝるゝ
きけゝぼかのるし
さつりは愛他の為天
人

[illegible]

職の神也。呪唱して災難を祓ふ。宮法拾遺に
[illegible]

[illegible]

[illegible]

掩韻 孟律抑云古集の
詩の韻字をみてあるく
ほの字と推そて勝負
をする。こゝはの字の
推ありてくへと明とき
わんじく者うつ
ゆもぎ〜はれどよく
らくくとらくくも
みくはけさハ
細流云貪るし。愚案
欲の毋きもし。独仙篇
貪生ラクッケドトヨワ
ワクブワルク ワブ
ゆるし。ゆちうぶ抱云云
ワクブワルクもさ。ゆるゆ心
わつうふあくぞ
従者也。目氏歌ゆ
従ハ字れーあるづ
沼ちのわうーも
せんくくてもくふ
受氏ゆ。ゆてはハ従者も
誰と逐従もく

ちくくけくちぐふわんぎて者
的〜矢の毛のくきき
ふみてなてるこう者てわがわるけ
ちきあれ ごをうけりぢぐわとちび
みくはけさぢぢ。ふくと所りゆぐわはるく
く。こと叶くもあくちめもあくちてゆわくひ
ろひちくくもうわくーぐやかこわふ
くちわひぢでのうちどわハわこわうあわ
ちくくすあとやうよ成くる人のりき
ちくくはぎれ。ぢづくよあるぐんぎの
おめげりあるづもわくーとちひゃく
あぐくぢぐせんとそわんぐるくう。
ぎくもちのかくちもわ浜作せ

ちくぐりてくぐ
あわくーるを衣裳
あぐくも俗よ出るを
わきあくとりも。祖系
ハはくふるそく
くとちんぐくちのちを
あぐわくるくわも
元まうの云を。云を
とい物家大臣の娘る
らでくと。近朱のり将
中将を絶て納云ハ上
るのぐる人をりよや
清美。英雄くもやく
さやうの人ちわ受
氏の中将よりしハ
きうぐやくるとく
中納云大納云大臣 云て
大臣を云とりひ納云ハて

うけあくくんとはねせうするさ白云
あるくーく人とやいんくくる。女房うちつ
ひくくぐわくーてうどちうぐくのわ
きいづる。ずるやうきくる人の中将
よあるくくるこくぞくとちきんぐちの
あるとあぐわくるよわとけうう者ち
かくよいくぐうちひぐれ くねう
ゆくくあわくあれ。同くーくあぐ
ら大史の叙爵せ人をきし 伯浜のきくあぐき
こゆるわハいとあおぼるやとき抱
を中納云大臣あぐくよあわぬ
おいむげよせんくさちくくやんぐとか

ずるやうをばこそいふ
受領は大上國乃ちふ
なりしいとこそうらの
あるもしもゆめさて
一位四ケ年の満ると紙
てうちまた他のうりて
合格の人をりつ
大弐　太宰府乃ぬいぬ
や相當四位し太宰のこと
ハ帥し帥ハ大ると訳まの
位なりて紙宰ふとも
ふつと府務をとこいハ
ざれば大弐帥ふりつく
アとて紙宰ふとおるて
太宰府の務をとこま
ばし。釈模しする者し
四位　受領ハ大ると又位なれど
ねぐ位なるもの安房国代
な。寛弟国代なものぐ
ひし官職便覧云寶
亀三年三月始置

くなぐ
ふるりこよりあるさよりぐく
はそていずるやうもしこうハある
ぎ。あるこふりくく大弐や四位ぐ
にあるて。一年ア有ぬれバかし
たし。ぬれどさりてすぎある
ぐりの事ハあるぞおりくやハある。
ハ上郎乃むとあるくきさきよ
ちりのあこめでくられぐ牧男ハ
のりあるハ出るこうめでくうあ
我男乃あり出るこうめでくうあ
ぬぎくるきよ法師乃ぬぐ

内供なる十禅師ふ
績日本紀ふ云ふ
寿元年毎年四月
大極殿にて最勝王経
講読の内供なる十禅
師を講師とする
ぬり。十禅師ハ十人の
僧都僧正
僧ハ位なくられば
ぬぐるるもの

なるぐいひくあるくあぐハぬとくく
ぬやぬゆる。紙くくよみぞめきらげ
あるるりつけて女よあるぐくれく
形ぬりハるこうつるぬのひうう
ありりかくるとこうれ僧都僧正
成ぬれば僧乃あられるくふこう
とおりよきくるぬもるの
ぬるりりハ仏ふ
風
おくこぐ三月ぬりりの夕雲
ふりくく吹るぬなくぬいとおりれ
八九月ぐるりぬりりぬぬてあき
ふる風ぬとおれぬぬれあるとる

夜とをしるわさを
為一云るをしる綿
絹し

河のもふくに風わたる
八月の風の涼やか
うしとなるを

かりくるをみるる都か
宮さ文選宋玉
風賦云其風中人狀
直慓悽淋漓
又云ニクサリ

その秋 椋一名郎
楝和名抄久

ちりはてゝうゝ吹くるゆふ夜とをし
るわさぎぬ乃あせ香ぢかいき。
すし乃ひとくさひきうねてきてる
ぬ。ぱすしぶとあつハさふ
すてゝわゝ乃ぶ河のまふわう成
めんとをつもおゝ ほつきかし 椋よし 湖し
はぬ。ぢあでなあ。ぢるよ。ぢ乃さと
吹わかてかわゝ乃さるこゝうゝ
おゝくれ 九月はごゝわ十月一月の狩
乃えうちくゝわゝるよ。風のいゝう吹よ
黄なるまの。ぢ乃わゝくとこゝれ
おつるとあれ。ぢゝのゝひくゝ乃

野ふの文の月 八月の
はふく暴風を吹る
月乃字乃とをし原
氏のわきぬきもをと
かゝゝ乃

ゝてをゝみすぐ
立蔀 美垣

みるゝよ
野ふふ吹ゝをれて
伏ぬひゝる

ふゝきゝるまゝ
文選風賦云飄名
伐木 梢殺林莽

ゝしのつゝぶゝよ
格乃ひゝるくゝと
埣とよゝ。こ乃ゝと
吹ゝと海辺ふ。山
辺の風形容 莊子
ゞ天籟を論ゝる

あゝどゝをゝおゝれ。十月ぶゝゝふ本立
ぬふゝるる乃遠いとゝをゝ
野ふ乃文の月ゝふ乃ゝ
たゝぶゆれ。ゝをゝすゝぶゝ
みゝゝよ。せんざゝぶゝふゝ
ぶゝぬふるゝまゝもゝれ枝ゝ
吹ぬゝれゝぶゝ。ゝよ。ゝ
ゝぶのゝうゝよゝゝびゝ 木の枝の這伏し
ぬゝゝゝ。ゝゝゝ
きんをゝとゝ。ゝよゝゝんやゝゝ
ゝとゝ吹入ゝゝゝゝゝ
風乃ゝゝゝゝゝゝ

うときくとこそ
いとこまやかねのうへぬりこき紅のうへのうるはしねぐめなれハいまねぐめなれハいまねれ
うちうちくしけつる髪のうへにうちわきて
物のうへにうちきたる女房ハ所ゝの殿
ばらの中にもいとあるべきうちきを
ぬぎかけ
きぬのうへにぬぎすてたる
ぬのうへにぬぎすてたる人のぬぎかへ
きたるハ風のさはぎ不祥
つれづれなること所ゝにねぬきてるまに
女屋
ぬぎかけ
ぬぎ吹きたるよりさはれくすうちうちぶ
ぬぎかけるとしてるかぎりよりとう
めでたしぬあれあるうきこそうれしに
文筆の女房
十七八ばかりなるやなんちいさいあれど
わざとなるとい
ねぐめすしのひとへ
乃いとうわらびたるぬぎかけもうねれな
ぐるうるはしき
白紅のうへのうるはしねぐめ
といるうるはしねぐめをきて

けぶかハきぬのすそにさぐれて
ぬのうへにぬぎすてたる
わらべ乃ぬぎかへたる
るせんさいなどをとりあつめ
たてそでするとぞ
つきてやはりけるを
心ゆきさぬ
髪のつとうのうるはしきをすこしぬ
きぬのすそにさぐれて
ぬのうへにぬぎすてたる
わらべ乃ぬぎかへたる
根ぐめ
吹ねぐめ
ぬのうへにぬぎすてたる
ぬのうへにぬぎすてたる
ぬのうへにぬぎすてたる

すぜてちゐるひさげのえれこれ
ゝとも〻てこゝろとゞれ　芦れき毒のあ〻ゝ　うちゝるきぬ
乃あざやかなるよりうつくしあるで髪
芦れきあのあ〻ゝ　さいりうあ
のゝりやれるいゝう志らひゝる不
乃おかゝもあづハまつで毛すびけう
いとおかゝくおこゝる火乃いろよりれル
帽額　帽額乃ひゝれいとつやふゝてゝ乃
ゝ　ゝ　ゝ　

あづりの八代伊勢をこえらでの村出浜八代出の浜伊勢地方紀の
国の浜に伊勢地方紀の国のくまとよりくまとちりのくまとよむれ
明のう生滝し八代伊勢
古今大事の奇絶所よ
あるのう八代を浜
万葉集よ八重の浜れ
いるれうとよりう
こうする 掃はし八代に云
浜ア。うづ多の浦と同
歌。但別ちるやうよ
人もいりうと
はがさう 和泉の法華
寺也。又八葉仮寺という。
本朝ハ弘法大師帰朝し道
基上人建立と扶桑
かさき 笠置寺 大和うちう。本朝ハ弥勒解脱上人乃也
うりう。 浜滝乃法師ハ伯耆邪道昌一月宴多ぜ〻〻よ虚空蔵菩薩
衣の神のよりう。ろ昌するうち神をきりて圓して法師ちよ安置せ

奥引こ
うのうち 上ハ紀伊
ふきあげ乃うち 来熟
て乃浜 ちろ
ろ。ひ
浦ハ
明乃う
あるれ浦
寺ハ
はがさう
こうづう
れちる也

奥引こ
出ル
志賀れう
紀伊し
わのう

石山 こうし 志賀

あ〻と元亨釈書ろいう。一説小栗栖野法滝ち常暁律師の太元堂ち
ち野ハ 金剛峯寺と号す。元亨釈書一日弘仁七年慈紀引相勝彼上高野山
創金剛峯寺ち
弘法大師 元亨釋書云 釋空海世姓佐伯氏讃引多度郡人父田公母阿刀氏夢
梵僧入懐而有身ち 誕唐青竜寺恵果授灌頂承和二年三月廿一日入定。
延喜廿一年十月諡弘法大師
石山 石山寺。東大寺ハ仏ちり。みぎぬぎ金をゆんさめの行ハ。朗弁上人
江引流多ち菴ち 如意輪を安置しくほ。奥引ち姫て黄金をなりけ
ち。ハ山ちをくろ丈六乃観音を中よこめ。又金
剛蔵王と執金剛神とを左右り安置せり。行元亨尺出ち書
粉川 紀引那賀郡風市村粉河寺ハ宝亀元年ち建。猟師大伴孔子
古山ち陽ちを乃く。仏を安置せ
ちぐよ。金ち乃ちよ観音をあくせ
ち者。子乃病を観音ちよれて平金
めをきくふ。みて山ちをくろ
出変 紫海寺と号を近江志賀那ちの
ち。八代法ちりの。天智天皇の法時山法ち陽ち
ゆきの侵安塞すみく。山法ハ古仏乃ちれ帝
ゆちて。兼て異法をいてちをくん山ぎ法ちる紀ちを立ちる元亨

只ちとりわけ。今八三井寺よりあちのうし給ふりこゆ

法華経うつも

妙法蓮華経八秦の羅什三藏の翻譯。こは第子傳寿れ受。この世ひとこあつくしいそもり。諸経家第一とすれば文

経うも

法華経ふぐん十巻

ずいぐ経 えんぎうるはぐふ けうぐの大ず

せんずぐるよ

よよ経 千手千眼観自在菩薩廣大圓滿無碍大悲心陀羅尼経うもぐ。せうも陀羅尼経とりよそ。西天竺沙門伽梵達摩譯。大方廣佛花嚴経入ふぐん十巻。これ花嚴経乃普賢行願品をいうもぐ。大方廣佛花嚴経入不思議解脱境界普賢行願品乃中より普賢十種の大行願をとうて。般若三藏譯。品乃中より普賢十種の大行願をとうて。二者称讃如来。三者廣修供養。四者懺悔業障。五者隨喜功德。六者請轉法輪。七者請佛住世。八者隨佛學。九者恒順衆生。十者普皆廻向。この十大願経とりよそ。

ずいぐ経 隨求陀羅尼経一巻あり。不空三藏乃翻譯。滅悪趣菩薩の一切乃苦を世るり。請て。世るぶぐ。ふをとき授け乃苦を抜済せんうを。毗盧遮那如来の自法界智の中より。普教万却をへて。求めるうぶ。ぶ故よ隨求即得真言と名付くる。

佛頂尊勝陀羅尼経一巻。大唐罰賓佛陀婆利奉勅譯。

佛在世より若任大子。七日のうちぶ死て地獄よりつぎ生。帝釈おれみ。佛よぶ。ぶ。佛ぶ。ふをとき。ぶげうひてう。邪をとおれうぶ。ふ霊験。ふ量。ふ。ぶ大す。ぶ。ぶ陀乃ふ言。ふ言家。ふ大咒とすけくよりぶ。阿弥陀根本陀羅尼ともうぶ。無量寿軌。ぶ。ぶ言と名付くふ。ふ。ふ氏注。ふ。ふ。ふ

藏譯六臂身金色佳
說法相右第一思惟第
二持寶珠第三持念珠
左第一按光明山第二持
蓮花第三持輪〻〻
これ大第一思惟のゆゑ慈念有情故とゝろ山を以て表ゆゑ
なり偏叡智或は二臂中〻〻大は思惟なは蓮花を持とゝろ
日ゆゑ左は蓮花〻〻清淨諸邪法故〻〻
〻〻 千手陀羅尼經曰即發誓言若我當來堪能利益安樂一切衆生
者令我即時身生千手千眼具足發是願已應時身上千手千眼悉具足〻〻
〻〻六觀音 按文六觀音配六道 大悲觀音 千手變破地獄道三障
大慈觀音 正觀音變破餓鬼道三障 馬頭變破畜生道三障
大光普照觀音 十一面變破修羅道三障 師子無畏觀音 天人丈夫觀音 准胝變破人道三障
大梵深遠觀音 如意輪變破天道三障 今案真言宗并法相宗除准胝觀音
奉加不空羂索觀音
不動尊 底哩三昧經上曰不動者是菩提心大寂定義也猶儀軌者
大日經二曰為一切障故住火上三昧
藥師佛 藥師瑠璃光如來 要文 我此名号一經其耳 衆病悉除 心身安樂

これ〻〻行本願功德經〻〻十二願を說き給ふ〻〻久しき世
の 釋迦牟尼 飜譯名義集一曰摭華云此云能仁寂默寂默故不住生死能
仁故不住涅槃悲智兼運立此嘉称猶如一代教主〻〻〻〻
〻〻 名義集云弥勒 淨名疏云此翻慈氏過去為王名曇摩流支慈育
國人自尒至今常名慈氏姓阿逸多此云無能勝云〻〻〻〻〻〻〻〻
屬を〻〻〻〻一生補處乃菩薩〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻
〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻

伯耆物語二巻あり。美作
守毛仁右ノ氏物語より
出たれハ二巻の伯耆
ものとえゆ

うつかのあい
うつかゆ〜ちのうぐひす
いとうぐひす
ぶくうぐひす
ぶくうぐひす
ぶく

順和名云跪鞠以足逆蹈也 [illegible]
愚案跪鞠ハ[illegible]
[illegible]
法はり 輕捷あり 拔[illegible]
[illegible]氏若草の上巳月のうら[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

譜別ありて、云々は河口侍ありとぞ
うぐひすとのさえずりと　春愛囀　和名抄一越調こ氏花宴よ春の宮さくらと
ゆきとのとあり此ものうつ
さうふれん　想夫憐　相府蓮　碧平調　伶人愚案太平廣記二百四十二繆誤部云唐司
空于頔以樂曲有想夫憐之名嫌其不雅將欲改之客有笑曰南朝相府曾有
瑞蓮改爲相府蓮自是伶人語誤及不改　國史補

笛ハ

こをうちわきこゆるが
人の笛ふきこゆるが
をもしろきなり　人の
ゆる　ふを我とをもて
きくこゆるなり　あえ皆角。
文選長笛賦云乍近乍遠とあるをかけり

たうのふえ　笙　釋名云笙生也象物貫地生
以匏爲之其中空以受簧也　說文曰笙正月
之音物生故謂之笙
三簧象風之聲

ひちりき　說文云篥
策笳管也卷芦葉爲
頭截竹爲管出胡地

花のもとにあつまりてうたをうたひてあそぶをうたげとなり。人の
をしはしとやすらはんとてとまるをとまるをとまるをとまるをとまるを
をしはしとやすらはんとてとまるをとまるをとまるをとまるをとまるを
笛の音し
ちりぬるかぜの
ちりぬるかぜの
ちりぬるかぜの

[illegible]

横笛の調のまゝ分りがたいひちりきを吹くまねをしれ

口伝

うるつきき髪をうしろへ人

とりなつらのぐ

ぬれてぐろよ面白さ穴

毛髪をうぐいとする

也 ぬぎ汚は百貫に値

現のねれことぐらふもを

ぶくぐれい毛もいよ立

ぬうぐろさむさま

[illegible]

[illegible]

[illegible]

業はあかものの社の姫小松
とりつぎとぶらぶらすきと
さぶらひや。春集よ
冬は賀茂のゆきは紅葉
みまつる賀茂の社乃
姫小松万代ながも矣
かくしぶ高とぶ
但又同集よ人の姫
明の社のゆ禊ひひ
と思をとけぬ月にう
ミこふ高とうとうとや
ほうしかとうろ
天乃御輿ハ葱華
として葱をかさうとう
みはるのすけ 風輩
乃沛綱をなを引とる
大全人助をとうとや。
百寮訓要云大全人寮
員員のうと弾ぷ今うえ
えうわ節会の位つと
めすすハ大全人の位

そもわおようひ引あるとうとあり
引奇はにあるどうとうなんれこし
よりそはつたるをえまつせてるあけ
れはおうつはちひはつまつすを
おぐくどぷぐきふいけうぷはい
はもあきはくさぷちきみさ
へぐやんどとあめぐうおがゆるみ
はるりすけ中ゆ將ぐどとなり
まつ乃人さいぐうおうぷきのふも
よろげのうすうるそて一条乃ちい
ちりひろうきよくあるはのうみと
あはくあ車はいつるもまどゆけ
まぷ扇ゆくかうぬるをりぐどく

引奇はは綱をを引すを
を林院ちくあん
はは邦のるてやおは

久ちはすはるとしんぐうあせぐ
はくしをぷくふはとくはて伊てぷ林院
ちくあんあどのとよはてる車
どぷ奇ぷれどぷえハ打ちくちりするぷいり
できんと月をさりあきぬてまてて
郭乃ぷあはるさくあるみやこきこ
ゆるまでちあきひぐせぐぷみぐうてと
どなはれぐよぷ学のをるを色みてれ
みせんとおがくうちくくるこうぷは
くそれどぷるさおうぷはとまりり
れ社のうるちあきてぬぐきてる

ことうりぬやと
車賦ひかれりやと問
やるむご　生期　問
ちうの足　ものこと
ものこと　江次第六位
左京路次第云長官
御輿　輿丁　おほ　共人
輿長　左右五人　女嬬十人
執物十人　腰輿　上下異
これをかりてかりはせん
殿院そのかりてかりもん
とこしの殿院のなかばは
車ゐて社頭にしかし
腰輿ゐてしかし
第六路頭次第云殿上
先詣下社　暫留社頭
小舎人脱却衣裳更清
服即駕腰輿入社頭
輿長行列在式未到社
十詩文殿上下腰輿歩
行以両面布道就社
前左殿座車畢出

ものもあどつれぶらくくるをいかうこ
とありぬやあどらへぶぶもごいく
て殿院のもくくしこ
こどくそどくこれう
まるていおくしゆんとめでくけ
ぢくいくくるけるとあどのさまみよ
とかれるとこ
しかうぢくるけよいかりもあく
かくせるおひよりそどめてまくち
たともものいとおりくえゆるよ布の元の
あをいろきのかさねをくきさだうハ
みくるはの花根ちくおがて部
ゑとたうかれぬべうおかゆりきの
ハ車ひとりよおちるのりて二あいのる

社外駕牛車参上社頭
あひくりくどかくきたはの
ひるまたはれさねる
どくしの桃夷葉葉云青杉
葉表裏毋の足あり
裏まくしイ本遠ようひ
はれどかもくゆせふ
まれはひのかくれ表
もすくくやる色様の
ちもうちまがくて中く
てえんふくくちれ車
のるさせの白ひちは
めの出車どれ扇ク
きねまたはるるる
もちあめくうはの雑
ゑはの尻のわをさく
部ふいたふくれ
ゐくを色をえやハ西がぬ
部云初かものたよ
くれて人九おに
殿院のえんくよて殿院
の袴の垣下がるまくる

ちあるハ狩衣ちと乱れさて。袴えれおろ。ぬぐるて
きとえくくあ殿院のえんくてひのさらぐく
蹴くてくるくくくもおくくやくくく

るうるぜ。その日二歌の所業人々垣下乃ゑて都盃のうり江海者にあり。
久もさやうの歌武所るや。長花おこり云大盛ぞ
ぞ。人数の名人仕交
ぞ。垣下の長年を
りもやこ
かうぐのたぐひ
きのれあるひとうの
種のたぐひ
るかたのあるし
きぐ人るるる
ところきれどいえるとる
ぐうんるるれ
ぬきう車せきつぎ
て。ちくれば
ぐくんしこ
ゆきとゆけばるる
らんとし　古今歌二
こわ小わくく　風雅八
巻に別るる皇の孫
てつれるきえたぐ

紙車さ
やうるくらく乃山里のきあつれるるう
つぼ垣ねとい物れをあくくちふなどろうけ
小乃山るる枝どもあどかわるるよ花ぶそどく
もひくけをそどつぐみどるよんゆるをかせ
て。車乃こうるわるるあどるかるとかつ
あるのたぐみくるぶ口かきるれうれかわゆを
をきれどえもとをるちどうえゆる行さ
をちふゆきこてゆけばけとあくどわつる
こうかうくれなこれ車乃誰とも古ぬ
隠
が古乃ふひきはぐきてくるぐるよわ
ハかうくとえるわどふひきわくく
すもこわくくこいひくるかう

今乃くるあれられし
車わくくあくて男の孫吟

うへはれかく芝のひ
うへけるくくる芝
生くくる　ほ撰愛
蓮聖乃うへはれ
あきうくるとろ物
わどひいくとふ
あれ　小河いるとわ

そより例乃年のようくひし
み月だくわ山里ありるくいけぐお
くぶるるでいとなをくえてわ
くるう。ふうへはれあく芝ひたどわくる
イくくあるあどくくとゆけえ
をあどくくとでけるゆけどさいえ
情緒ある　ちくくるあれみてあくれどへ乃
あゆひくはるくぐくりあどくいを
おうう。たたりはる　生垣　垣乃枝あどのかを
て。車乃屋かくるゆくるぐくくくく
くかんとるるぐくくぬる
もくちなう。ぐもぎ乃車よりひられ
くくるどわ乃ひくくくふちくくへ
ある者をいとれく

イくくく

汗のすすりなくこゑ

いとぎりもすくすく
ぬきとらるるものの乃
車うれいなき優恋ふる
もえうつるのを

あやしうぬきすてゝ
鞠乃音れば
おとるべくくれ 鞠の音
あやしきあの音う
ふるまれば

そ示一段
いとうあつきさはゞ涼みとふりよの扇
さゝめるどれがめくきうり男車乃ぬきて
をふいはゞぬき車もあるべき。で乃人も
きちのすぐれあげくぬちとひとり
しのるくくたらせくいくこゝいとと
ずげられぬぽくく題ひきあ
笛乃ねきこのるこぬくいあるとロな
しくぬやうあるなどくうう乃きわづい
乃れあやきふぬぎきねさるれば
うちわぎてくきこゝあるどたくきこゝあるど
れぬぽとくくうやみあるよぬきよとも
しくるれ乃燈の乃車ふれるもいとを

そ示一段
ぬ月乃きうぶれ秋みるるきぐるるが
ぬうきくくくあやきをぬきあ
あげくるもいみうあ
くくくききくくるくきあれぬきのふな
ひくあるどぬらうこれくくぬきをを
ぬくぬきあるぬ中よぬ燈乃のくあ
いきれくくあめ

そ示一段
ぬきあるくくまきぬ中ぬ黄あるなれやうくしがの
秋の夜乃ひやれて ぬるどやうみ
ぎう見きひくあるくぬをせんと扇乃風とぬくくくれば
おとぎぬくをひくくあるひくくぬ今ぬぬくあるぬ中ぬ見きを
をこれくくうくあるくあるくんやとふぬくくおくぬ白ぬぬくあるぬ
やくをこれくくあるくあるくんやくくく

こうぞうんぢのあせをいやるもぐさ　あくいはなしどとうつるぐつふ
ぬぶあずやくかぢくつる扇くとうをきそぐひきあげつぐれこく
月乃ことあるきよ川をまくれぐ牛乃
あゆむまくにすいさやうあどのわれる
やうにあの乃ちりとるこうなーくれ
れわきあくくよのき扇
法師　くどぐ扇　家　ちづろすどり墨
かのこれ月ぐおもわわうきさい女めきこちぐ
くるやちわ乃やうあくんいおうろ　火楠
わうづき　松乃木　山ぶき乃花びら
るとうーもよきいおうきこうあめれ
こどくてあるとねべき扇
とみ乃扇ぬよ系　とうこい　げと女の

人乃むすめのこと
舌つきおそおいぶれ
くるをきくくるべー
くりや　厨和名
字彙云廚烹飪之所
ものを烹調するところ。
裏ぶるぐ
ぬひ乃ぢうし　曹司
扇と同今の世代部屋
けどん　懸盤貴人
乃膳よ月ゆ原氏
葉三院乃れ人ぐ浅
香乃けどんとおり
童女　くくく和　本
きやくうる童女　よき
くくくぬとわり
中のぼん　中盤　懸盤の
ぼうるを云ぐ河海云延長御記曰采女調和若菜義供進給侍臣盛中境置中盤略
ひぢりわーくうら
ちくわうくうきくる

髪ぐうるたくくみどくくてあるとねべー
人乃むすめのこと
くりや　厨
ぬひ乃ぢうし　たきれあくう
きさめけどん　童女　世俗のおくくさ　帝し
くくくぬ扇　ぬ井
くくぐ　こ尺乃きちやう　装束し蘇の
くくくうのくくうと見ぬくう
くくくうきくるくうろ　ぬくうきかき板
汁厨は黒搦し
くるぐ　ひぢげてくー　中のどん
園屋し
わくうぐ　ひぢおわくるくうちくわうこ
くくきくるくる大おけ
竹屋屋也　桐火楠　ちどよ　行よ　屋ちで　ちおくきー

げいし　おきなもち
車付れてきたる

はくうん人こう
きたるとのすがたを
はく言人とはぐて
上をアそこちの
行幸ハ公ア歩行

ぬへいろうそくきとげあるのこれて
えりうやのあるうちくろぎゆうう
いづちあるんとおがゆれ　みきげあるわ
童女しらべあどよのおこめいとなぎやうはあるど
そへられくしあへうみてるげいしりはやうあるがえに
きたつちおりくはやるとときて　きろきうしま
はくみくるる絵ぞくハどこみのみてよ若紙ども
あどいれくことてゆくこうぷみうとびよせ
てアきりれ門ぢうある平をわるをを
よびいるにおいぎやくあるいくもせで
いくるのくぷはうん人こうをいくれ
行幸ハめでるき絵上をアそぐち車

ゆくく供なられど
よりのりよりと
そよりわ行幸のよ上をアの車ハ
のきぶらく
きくとりしーに付て
車ハアみーげるが
わるきりどもとを
沈経ハどいくう
読経強ちの車ハ
罷うう仕世のくあ
るれぶくきでハ
よ花麗うでも
アくあるねー
でみまふりてよじ
きアて車アくハ
アずてなれうと
くどき月のけくて
きうんくきめうと
そよりわ強の強ア車ハ
ぞやうよくきを
いつ
いうくと　ゆく人ア
るくきあてハいりう強

寂さはひーきゆく
あのあるくすくうーちうぐちき
よりげのりるすよりもわびーげある車よ
車乃紫果し
ちうくわくてあるくいとくどし。
沈経きりどハいとくーぷみうちあうの
るあれバるれぶ形あるがちちるさ面
くくアくんぐくくべきをぷーてみふ
ちどくくアんであるとねべーぷずれくと
あくてきろきひくうくうれあどで
なのめりくーぷどき月れきるみく
車ともすずれをきくくいとくちち
りうくあくしどと出くくぐふぷやきる
車などんうげくくハはきるあどるる

ゑ知ることをえて

よきこゝろをもつて

ゆくのことりよ

よきあをを人をわけき

にこゝろしりて車とゝ

ぐせ侍るべし

ゆをおくもよきこゝろ

お駄の人こゝろ。水飯とて

湯づけをやれ物を

物をぞまもりていうづわるゝぞちみゝくさて

スキ人ていうづわるゝぞちみゝくさて

えんぶりのぐわるゝくえんぶちの

車乃河わげくちふぶ川はすぐこゝろ

他の車をとゝわけく侍るの近ちよこゝろ

心ときめきハすれよきあよそんとゝ

せでぞ。ぐつくゝ出くゝわれでいとえゝきよ

車の簾を居侍しまつとわりてに

ぬゝちあぐわちあどけつくゝ

まちごうする困しそむ

いわゝゝ殿上人あの元安方納言ぐよ面車し

やゝ川つげくゝぬんのくさわゝらせ

てくるこゝろ。ことちよゝわとゝどろっ

まくゝうれゝそれ殿上人乃ぬつひとゝせ

あゝ乃侍おどもにすいゝんゝゝとゝくゝ

侍ふの中より元

ぐきれゝふるひきよゝすゝふちぐわるゝ

家のようしあるゝ

人乃ゐどもあどゝもぐゝ侍ふきあどあるて

馬乃口ゝゝきあ

るれゝくちあどゝくゝたゝ乃ゝ出ゝの

ゐんゝもいわゝゝれぬちあどゝいとわげある。

侍ふ乃元興し

侍こう乃わゝゝせゝくぐすゝれゝとある沼

ゝわれゝるゝさゝせゝるひぬゝゝよゝどゝひ

ゆどゝゝもゝゝ。ちゝゝよゝゝそゝる車れゝゝ

我車のようなきゝる車れゝゝ

いゝどゝうせいゝゝゝふゝあどゝゝゝゆどゝきゝ

と出ぬゝくゝゝゝれぐゝひわゝどゝくゝせゝ

人を制し簾て人をよゝゝる

ゝゝどゝすゝゝゝゝゝゝれゝ。あゝもゝくゝち

歴くのようなゝゝ

かゝさゝあゝわゝゝゝゝゝ。よゝきゝあの元車。ん

ぐひひゝきつぐゝゝて。ゝゝゝゝるゝゝゝゝゝよ

ゝゝれゝもあゝるゝゝわゝ

ゝゝ。ゝゝ侍院へゝゝゝる

ゝゝゝゝ。イ本ゝゝゝゝゝゝ

ゝゝ。車乃轅ゝゝゝ。

牛ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝれゝゝゝゝ

人ぐひひきつゝて

副車延喜式。和名云

漢書註云副車ソヘクルマ

後来也。河海云人給後

国々記 権記有此名出車

ヒ。ゝゝゝゝ出車ハ名方

ゝゝ侍ゝれゝゝゝ人よ

[illegible]ゆ人と名付けもの

[illegible]のけさせて
[illegible]民業車[illegible]車おろ
ひろ[illegible]もぶ[illegible]の人
あき[illegible]を[illegible]ひさぐ[illegible]
みるさーのけさ[illegible]と
[illegible]るこ[illegible]り仰わ
[illegible]く
[illegible]でハあ[illegible]ん[illegible]
て[illegible]ぢ[illegible]こ[illegible]
[illegible]ぐし

[illegible]のよ　[illegible]の
廊方屋[illegible]呼びて[illegible]
[illegible]人[illegible]嘆ゆ
[illegible]ぜ

[illegible]んと[illegible]るぐ[illegible]ぱおとも[illegible]
[illegible]おり
[illegible]ぞ[illegible]車どもとぐのけ
[illegible]のけさせく[illegible]へがひつぎくこそる
[illegible]いとめぐ[illegible]れをひのけれる
[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ

三条乃文より　勅物云
長保元年八月九日
職御曹司ニ移御畠
三条宅ニ
さうぶれうー　草蒲興
神事いとまなくて　なほ
はらへもせず　五月根
原端午のやうに六府お
やかのうらを南殿の階の
東あるに　又所のなかに
うつて　四日に

とりてなりて出たるこうしてうれとなりうてこと
紙に　あんにいとうすくさとよ
あるこぬ名乃　わりたるる
さてやねまぎわりハ　わんとけいー
れぶたる近内侍　ごとわるせあひくわ
らせ　あひろり
三条乃　ろうさまとは　勅物云二年宵
うぶれこ　月のさ
むまいる　せちぐ　ぱりさんぐ　ケケけどの
あどくを　備子内親王　敦康親
まうしお三位　ばくやわらえ　ハ多
させもと　いとなりさ　菜むかりわを
まいる　せくるよ　おんをざ　朝　幕
といとものを

名餅乃　ぬ　ハ　ぱ　ぱ　ぱ

先也。赤衣をきて扇をもつ。
是は中納言とぞ申しける
成信の中将　動物の原成信
寺にて叙年釈迦堂。
大夫雅信女長徳四年
左中将元良の大納

大鏡に動物の正光長保二年藏人頭左中将。四年十月大夫。恩業永延正光関白兼通の六男母左馬の有年女

はのまつりのつかさ
ものうらに殿師とり
恵耳聰所水下蟻動謂
之牛鬪と蒙求あり
胡子湯問篇に焦螟
の虫。群飛て集於蚊
睫を世のめくことき
人とこそ也れとえ見
ぬを只黄帝と容

ましてこそ
成信の中将
ひとりゆ
ぬ
大鏡に
つるわ
の中
大鏡の
中
中
誰とも
大鏡に
中
中
中

[illegible]

祝乃ことつきぐし ちぶさき乃さうも 能ちうねど
[illegible] 人乃わとむづかし
[illegible] れどおれど 如れどなるず
[illegible] 乃ゆ [illegible] 乃ばせ [illegible]
[illegible] 乃 [illegible] 祝わづら
[illegible] 墨の青み
[illegible] 人乃祝を [illegible]
[illegible] 人乃 [illegible]
[illegible] 人乃 [illegible]
[illegible]

[illegible]

こはらの中ゑりも
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

罪とれば松のつゝさよ

みつるのやしろ　延喜式大和國山邊郡石上坐布留御魂神社　日本紀神代巻

うゝのおれしゝとゝ八岐の大蛇をきりゝる劔と蛇乃麁正とゝろづゝそ今石上ゆいまする由又ゆ。神皇正統記神武天皇巻布津といふ劔を宇麻志間見命よりまつる。そも劔を石上ゆあがむる由こゆ。神中物語昔女ありて布を洗ひしに上より劔流きて。万の物を皆さわ破るゝ。此布よりこの社ゆ祝故ゆ布留といぬのよしとゝるとハかゝるこゝ。三代實録清和天皇貞觀九年三月十日大和國

やしろハ

みつるのやしろ　延喜式大和國山邊郡石上坐布留御魂神社　日本紀神代巻

うゝのおれしゝとゝ八岐の大蛇をきりゝる劔と蛇乃麁正とゝろづゝそ今石上ゆいまする由又ゆ。神皇正統記神武天皇巻布津といふ劔を宇麻志間見命よりまつる。そも劔を石上ゆあがむる由こゆ。神中物語昔女ありて布を洗ひしに上より劔流きて。万の物を皆さわ破るゝ。此布よりこの社ゆ祝故ゆ布留といぬのよしとゝるとハかゝるこゝ。三代實録清和天皇貞觀九年三月十日大和國

石上神加正一位

いくしのやしろ　はのゝ八部郡と延喜式あり　日本紀神功皇后乃時天照大神乃ゝとゝと稚日女乃ゝるゝれ活田長峡の国ゆ居んと敢のゝよりゝ海上五十狭茅をとゝて宮ゝ

ゝゝれ　延喜式大和國平郡ゝ立田坐天御柱國御柱二座ゝ。日本紀天武天皇四年四月。筑紫の伯廣庭ゆ風神を竜田乃立野ゆまつりし

ゝるゝ乃やしろ　陸奥國宇惣郡鼻節神社延喜式ゆあり。ゝと子と通ゝ

ケゝゝ乃　義久理神社越後沼奇郡　延喜式

ゝゝのゝ　文德実録二曰第祥三年七月遠江國任事社授從五位下

ゝのゝきゝゝんゝゝや　ゝゝゝ

とゝをきゝゝよいきゝゝれゝゝゝ

誹諧哥　わぎもとさのきしくん社うう果ハ殺さ
乃森しかりるめ
家祇云わぎもとハ神よ
いの心をつしぞれを云
よりて。わぎもとハ乃
こうこうるくらわつ乃ハ
しきをつをきくよ
くうち。おわりをつきハ
殺の殺きとある義し
事ハとりハ原なく式
哥をりくいる感
あぐてう家よ入わくん
を

老人乃出つくんをこう
きくひめくめ家内よ
居くくんいきでとハ
せうう。あぐてうさま
でハ制しのくんよの
心ぐろうるとをを
あやしむ引し
可の人とりもかくん　帝の
家うう入わくくん人をバきくぐもちる世
りぐそあるとくるせよこうおやハ上を陛
あぐ乃ハくんハ中将ぐおやてりもち
ハ山中将ちくれどざくあるもつち畏く
きくくん時乃人おわすぐ成くり。ちくこう乃
帝これ乃みうとをいうてをくわて。ハ山
仕まうわとうくくんとて常よ心くんあがひるを
きくくをうひくるはやくをきるふ
うりてげよ当づりくる本乃二尺ぶり
あるを。これがうとおいげくぐとひを
くくよ。すくくきやうるくれば帝

ハ山中将を尚侍
乃異名と申ぐ女
を文乃ほうをりし板
ちよし
いとりくて　式詞歌
きふ仏くを味わり
帝りくをうよりて
を人を抜の小敬てト
の人をうみよりくせく
式他ぬのうぐ雅をを
すくくんと中ハ人をん
ぐ中将ハ乃をぐハ山
くをひをりくりくふ
ちきふをけく
をを文のをへくく
本の内きくくくを
りくくを来と意し
てうり

おぐくりわぐひくるよいとあくくてお
やりくくよゆきくかうくく乃事をん
あくくよくハ山中将ちくん川よりちぐ
よくさるくあげへくんよがりておぐれ
ひくくをすをくるくはりを世とを
しふよりりくく我をりぐわよをて心
見侍くんくて。人をぐくくあげいれ
くくよりきくくりかくよりきくれ
をはくくつりくればくくよりハ
ありしくわ。又二尺ぐりあるくちかハ
乃なあぐやうあるをそいつれり男
女くくなれて。又けくよ人えをくず

七わさる　七蜘

いとうんあがれとふ
ようりゅん
ものの上よりも
よハ絡をえとんをさし
ものしふりゝハ不用し

れいの中将ゆきくとえハ二門をあけぐく
尾乃うちはらはるきとハえをけちよせん
尾動
ぬぬぬ　おそらくこらくんをやらまとつひけ
本のうつし　せとかれとも
ぬれハぬぬとふ一門をうごかさず一門を
うごうるふ又ハ雄を
ぬ雄をはらてつかりかわ
紅久しくてぬるぬるぬるぬるぬるぬるぬるぬ乃
穴乃まぶ
中とをわりてぬたるはあきあるぬぬぬ
ぬきををぬぬくこれをとををくるぬ
彼国俗ぬ
ぬんぬぬるぬ絡を異し
ぬるぬるぬるぬ
ぬぬぬるぬぬ
ぬぬぬ
ぬぬぬ

只今こゝる父母の
を中将我父母のもと
ゆゝ行ずすぐく世
人の父母をゆゝるれん
をこゝるゆゝ。こゝ中将
我父母のもとこゝれど
月連こゝる我母の地
獄ゝゆゝるをすゝゝん
とすゝゝ。おゝれゝ一
切の衆生孟蘭盆
をこゝるゝめて。こゝ
母をもうのゝめゝ
佛乃方便と申ゝる
べゝ

あゝゝゝ七世の
心明し。袋双紙ゝも此
蟻通明神の御奇と
ゝゝゝ。是昔彼社乃
名ゝ旅宮氏者れる

あるべきことゝゝゝ
ほゝさ信をもゝゝゝ
ゝゝれゝ。ゝゝゝ
新年をゆゝさ世ゝ
ゝゝゝゝゝ中将
ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ

うとときがら　落黄し
恪に百首　「ロうの名
ゑゑびく落葉を雪
けの光と祇りてぞん
すぐる　昴星　和名六
星乃火神ゑ
ゑやうたやう　明星和
名よたかほしとよりう。
神事記に古こ利くよ
わりかやゑやうきうを
久つて　長庚　和名大白
星の一名ぞ　流星　和名
よばひかり
あゝゝゝ　星し
よばひかり
てゆき星にしとくれ
名をさくつずいとさ
はれ　ぬ
ゑ　去色　古作の
羽ゑ　ゑ年

とりてわうえゆるよ。うとときがみさ
れ雪乳しるびきてるいとわいれうわ
月を
を明安乳山のふわううて出る狂歌
星ハ　牽牛
すぐる　ひこがゝ　みやうたやう　久つて
よばひかり　倒のちきうて
雪ハ　ねこきもなり
ちるき　ちるき雪と花　風吹
わりあるぞ　ぬるをまゝ　わよのちるき
雪乃やうく　ちるふありゆくもとあ
ゆるうとりやゝふもはちるくわ

ちるゑ　ちるき　ちるき雪と花　風吹
ちるゑ　ちるき　ちるき雪と花　風吹
ちるゑ　ちるき　ちるき雪と花　風吹

とてしどうしこれ
なり國俗十八月を觀
音の月とする）元亨
かけあげる髪を
してゆいてるる
かつらのうれたり
唐綿の革帯うや。
革帯ハ紫方中。
る金玉石角
をあてぬ。或ハ白玉帯 陸久帯 馬脳帯 紀伊石帯 出雲石帯 班犀帯
烏犀帯のごとし。順和名抄ハ桃枝葉葉ともと。唐絵革帯一名造
ひいどのゆるまし 遁世の僧の進退ハ世よりハ出家ゆゑおいどろもど
えのりれ 宮乃部 巫祝乃れし。巫祝ハ神うりかたりて
すぎれ。又神うりかたりて
りんまわりぢん 公事根源ニ雷鳴陣とハ昔雷乃造ニ
ハ大将以下近衛の次将まで弓箭を帯して仗殿の孫廂ニ
懐ニ
ハ。大門乃裏茅負をハ雷鳴乃壺とも。牧西宮記ニ
人ニハ將監以下府生 衛門尉 ハ武官ニ

かつらのうれたり帯のうへ
ひいどのゆるまし
ことしてあやけるる
えのりれさいうんよむ人 舟ごぐ
りんまわりぢんれ金人 すまひ
あやけハ安礼し

まるすいうるるや
すまひ 七月相撲乃節ニて禁中ニ力乃
者ニ召れハ我力を恃て
人と恃ー召れるるや
いけやうりうるせる
むしりハ三年ニ初て見
るぬさ
やうハ見きるるべー
ゆれそこひ出て
被乃そふすべき紙麻
ちごのれを注出
ちごの口をひいゆゑ
てをー きれぬかみて
アきけるるる

ちごきれ

いけやうりうるせごちごりいのりちく
ちごする女童ハ乃ごこひ出ていのりれ
ゆゑ
みおきるるくきるさ
べくとしてしねよりる
のゞ口をさくひきゆゑめてをー
まゆゑ
神ゞ
どもしことりハ
ゆゑ
るるるる

を人こめ〜ゝわろれど
こ陰陽師ゝ〜ん〜ぎ
ゐ〜ぐめ〜れ〜ぐ〜
これ〜ゝるゝのゝいー
愚癡ある男ゝゝいゐ
ゝゝゝゝゝ
ゐ〜ゝゝゝ人を 呉き男こ
押ゝ〜ゐ〜ぐゝゝゐ〜ー
本ゝ〜〜ゝ〜ぐ〜ハ呉き男
ゝ〜ゐゝ〜ゝ〜ゝ
上ゝゝア ゝゝのゝ
春宮大史 百寮訓要云
一ゝ〜ゝ〜大納言ゝ上ゝ〜れ
ゝゝゐ。規模乃友ゝ名
家の人ゝ〜ハゐ〜ぐ〜ゝ〜ぐ
坊中ゝ〜ゝハ大史執権
左大乃大将 左近衛大将ゝ百寮訓要云近衛府〜ゝハ君を近て
ゝゝゝゝゝ武勇乃職也。又武府乃ゝゝゝハ近衛の大将ゝ執柄三家乃
人ゝ〜ゝ〜ゝ執ゝゝ。職ゝ。大ゝゝ〜ゝゝゝゝ大納ゝ乃兼官ゝ中納言の大ゐハれ

めゝゝゝゝ〜ハゐ〜〜ゐ〜ゝ〜ゝ。
こゝ人ゝめ〜ゝゐ〜れどゝゝゝゝゐれば
人ゝ小女を ゐんめゝ
ゝゝ〜ゝ〜ゝ〜

天皇ハ　執柄大臣ヲ
乃島ヲトス　奥族ヲ
法華ヲ　中院　閑院　花山院ヲ三
家ヲ以ヲ　西園寺　徳大寺　これヲ閑
院ヲ　大炊御門　久我　轉法輪
ヲ　法華ヲ　但ハ　ヲ
ハ　家ヲ　ヲ
ヲ　ヲ

天皇ハ
以ヲ　以中将　摂中将　四位少将　義人ヲ
義人ヲ納言　春宮亮　義人ヲ兵衛佐
法師ハ
律師　内供
女ハ
内侍乃ヲ　ヲ　ヲ　

得奏請宣傳ニ禁秘抄云掌侍六人正四人権二人権自上古有之此内以
一内侍為勾當隨補月為一二也又旨劔璽渡時内侍二人直取之尺時典侍
傳之授次將号送内侍
ゑもはりくはくおもて　女房より　内　左宮こちたくそれ姫宮一品乃宮
つくはくるはきあし　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　
内　禁中　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　
一品の宮　親王ハ親品　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　
のち一品二品三品四　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　
品ゑ　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　
ハ品　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　
秋院ハつみかるれど　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　
宮殿の秋院よりハせ時　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　
のみぐち　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　
春宮乃内女房　或本ハ　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　
ゑ　　　　　　　　　

かとりのひび　華奢なる
源氏ぐるまきくるとき
紋あるべし

ひとしきのけしき
うへ切さめよ指貫ハ
今衣冠とり上裝束
ゆるべし
あこめの紅なるべし
袍也　袍乃下に長く
紅の袖うへハ山吹を
ゆどとりくくる

ゆどう　馬道也　源氏
きりのゆどう　物語華の宴
うえたるぬりごめの
戸をたてこれとあり

位とぞうるうるやくもゆうへの衣
乃色いとき上きよくゆかえ乃ひびうる
つきくるをぞのぬとぞるよ（肉の色なるべし）
ひきたきの乃けーねきと雪よりくくこさ（白さ雪ホ裝の二入ときし）
まくりくるをきくくあこめの紅なるべ
ゆどろくくちさ山ぶきを出くくりくさ（山吹のうれ黄やうなる　表うと裏裝黄し）
をけくくるよ風乃ていくくふてよこさる
よ雪をふくくれぶくくてあゆ
みくるふくぶけうくくあどのきゆで（深水　沓和名　半靴日）
雪乃てと白くくくく

世人さゝ〳〵忌憚ねぐ〳〵ゑ人よ生れぬ物
とゝ〳〵へ

郭公をいとゝ
郭公といふ里離を
めげ〳〵しくもゝ
とハ怪乃字を
心うり
かゝくきすよ
よ〳〵れ
そ
うゝ〳〵ふ
よ己の字を
かゝハ日本紀
ハ民
ハ
ゝ〳〵
拾遺よく
世俗
とゝ

乃ちいさき笠をきて
もゝ別
笑
わ
ゝ
奥の
ゝ
ゝ
ゝ

きのさうの苗をうしの
河のまふいるぞうぎ
て秋風の吹、左今無
わをうへうえそる
稲の種を上うておて
田丈乃垂居るとし
ふめりくぢ　蚰蜒　和名奈美知
ふせ板あのくき　さも
ふき板葉とりく帰し
殿上のがくし　金まりや
川八金ものもしぷ男し
くゆもがしれい　あちち
なろうきゆくうもし　芦の
ゆきそしかり　ろきうや
ずわう　ちてる　俵屋
護鹿　ちど俵ちる
ら人のさちけ　きた
我丈ちで　かれて俵ちき
ぢきたちの　ぢくきの

乃やとげうりぷでうきき事ふいとせるり
くえゆる　ぷ　やいてさすんがたうへうてあみ
をるぷいとかうえうんゆいかり乃さるこちる
いうじくまくうきき板
ふめくぢ　ふせ板ぶ乃帚　殿上乃がくし
せめてたうろうきき板
よるある神　ちきさうりよぬとべ乃八
ふる　我とむ　ふ人くるハくで板とるがくねど
ゆとも　ちくず　イちきき　ちを　ぢちくもち
ふくゆ　きちの
くちけ　きぢ俵ふちくくずわうきる
れ　ふ人乃ぢちけ　きぢぢちにふのくもき

ふくくゆ　ぢ　ふ　ぢ
ふ板ちうりきれ乃
ふきうきふ板ちの
ふのゆをいりちん
いうりやちん
ゆもちちばうや
らんとゆくゆ
ふる人のいうぢうけよ
そよりおり乃ゆをう
けて　ぢもおりし
乃ゆぢりをうるゆ

ふるあくひうりいで
ちうう　ふうちうゆ
しき中ゆいうで　ぢの
ふふきうもなれう

人乃いふ板ぢ　ふふ板ぢ　ふのゆうる板ぢ　板ふう
ふきうきふ板ちり乃　ふれぢもれうちう
ふのゆをいりちん　ふきうきひ
いうりうちうそくむちちりくぢ
ふくくすきゆぬむこれきうぢきちうぢそて
きうちふふあひくるぢちりちゆちちん。
ふる人乃いふぢうけよ　ふひくる人のむと
よふりて一ゆをちうぐくきうちこで
ちゆくふのゆぢくいふちうりひさはぎ
めのめふ　ふぢ　ちゆれものくぢぢくきき事
ぢもいつと　ふるちぢものくる辛乃ふ月
に差入りちりぬふきちうゆるふう
ひよいうでとこう人はうひぢれふぢいひ

あるこころざしをうけ
のうひしめのしるべ
わるがわるいつも
まつりのうへのかた
綾の表袴し

すわうやうね えのう
袋を藤黄乃下ぞ
わるくなれ付すわうして
黒むりをうれを深じ
禁色を強くうる人皆
美をと桃夭葉華不
あり
ろうそんひ 黒半臂
桃夭云夭ハ生乃穀
文をまきてすきりう
みくに深之綱忘綿
いらしとはくしてて
付之と
人よみくれんすうう
人よみくれんるうう心
うきおうそあくんれ

あつふハゆらんーぷ月よ人乃ハ薄
きのひーあーぷ人とおつゆわてきくにの
美人よあわるむとれきうのうへ袴
すわうがさねぐろちんひあどいうの
ざやのゆくやとれうへ乃車れとなの
ぷーぷ袴綾ひのをひきうけいがわは
ちよどんひ綾
みくわーりんをぷうよくくんと車れ人く
ぷのしくうるかぶわハとのうるーどと
ぷ乃ぷ 他人
とんどもとぷはれあくみーはるる
どぼーもひきぷれ男ハあれとのさ
人乃ちくんすハきあねそわぷ世のよ
れいとぷうきねぬ人よみくれんまく

ちのこころ
それときせんよ 紀れ
自然ハ情密ゆを
新新するもよくいつて
とうくいられとみく
やくくねもしそうと
よるき人の形すハ文
上密ハ子及子ぷ袴
し新新ようくきりく
紅の人他人も用ちた
ぷくくくよるき人とい
いくくとぷとくくぷ
ちのこころ
論語曰子曰孝哉閔
子騫人不間於其
父母昆弟之言
大学曰宜兄宜弟
而後可以教國人

ようなるべくんれぷれてくるくひのわれ人よさ
きられんとくきくひのわれ人よさ
みし親そうんぷれどきぜんーぷえぷくぶ
もれねがたのるぐいと信きやぷうきぷ人の
うきぷ事ハ文やぷとあどのかるる新るどの
ろありうすするハめぐちんくくれく
いくくきちくぷゆれぷくるうひあるぷと
とりぷいぐぷきぷんとのぐゆくくあるす
あきぷ人とれをのうとくうんハ新られ
ぷぐうーとを意やゆやも男くるすぐく
うらわくくんくもぷ人よきぷれんぷわめで
くるくるハあくぐ。

いときさうけちる人を
あ人をとゝ様にて妻とも
うけ男ともちるべからや
しまとも
年ちうんさをぶふ
男ふれ妻せねとき人
をも妻人とゝいんをハ
ちゆくゝもゝいりけとも
人のしとゝもまきこぬ人
長恨寺云楊家有女初長成養在深閨人未識
うけ女乃ちもわうと
彼妻人を捨て妻
とうけ男のあやまき
事とゝちうつゝ也
決おせ後の例うも
みてういさうらも
男れみてすハ男げま
すゝ和うゝとも

きうゝとうて
くあやまきゝ
ある人とすて
ぶくげある人をゝ
なやゝ
家乃ゝ
いえちゝ
をぶふめて
ちひれうゝ
ちもどうゝと
とぷうけ女乃
あるすみの
き人乃ぷ
てとせあど

おちあけりゝぶちゝ
ふの見ゆきゝ人ゝ
服五心。帝ゆきさ
ゝいあやゝきりけ
けりゝぶゝとあり
高ゝゝゝきとい
ぶゝゝゝゝとい
ゝちゝいちあゝと
事の例れどせちゝ
心ゝゝいれど
ゝてせひれゝう
うゝれゝ情ゝ例を
情ゝゝゝいぶゝ
とゝ
いうてゝ人ゝゝひうゝ
ゝ 彼ゝゝゝゝゝゝ
ゝいひゝゝ情ゝゝと
ゝひあゝゝとゝ
ゝとんせゝきとゝ

うちすゝゝ掛ゝゝちはゝゝぶらうゝけよ
ゝけあゝゝゝゝゝゝを入れてゝいきゝゝとする
ゝゝあゝゝゝうあゝけゝゝぶちてゝんゝぶ
ゝゝ訳れゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
乃ゝちゝぶゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
高心ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
あゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いさやうのことをかんがへとり解しとひとけばはるばるとまきうまれ
給ひしこと〳〵ていこゝろぬものをもやはやかはるしかばかりの人のすがたにあらずとてをのこ
ばかりをかたらひてこゝろをつくしぞかの人のすがたをとりてもいらひ出て給ひしぞこゝろの
をとこりらひかるゆゑしてこゝろをくだきそのかたちをうれしきものかな

又ひとくだりをよそへて

一の巻と又てゝ日本紀
に一巻をひらきまきまくるやまもゝしと
二人をつけてみてこゝろをつくしてこゝ
第二の巻のもくてこゝろをきくべし

まことにかたちをうつしてうつくしかりけるものかな
ていこゝろをつくしてこゝろをつくしてこゝ
二人をうつくしくぞとてこゝろをつくしてこゝ
人のやうにすてゝこゝろをつくしてこゝ
きこゝろをつくしてこゝ
てこゝろをつくしてこゝ
すがりてこゝろをつくしてこゝ
のかたちをうつくしくぞとてこゝ
人をこゝろをつくしてこゝ

くるしみとあれぞかきこゝろをつくしてこゝ
きこゝろをつくしてこゝ
ぞあらせてこゝろをつくしてこゝ
てこゝろをつくしてこゝ
こゝろをつくしてこゝ
やしとをきてこゝろをつくしてこゝ
よとこゝろをつくしてこゝ
人のこゝろをつくしてこゝ
まどのこゝろをつくしてこゝ
ねがひこゝろをつくしてこゝ
人とこゝろをつくしてこゝ
こゝろをつくしてこゝ
こゝろをつくしてこゝ
こゝろをつくしてこゝ

男はいかにかやうにわるいまゝれどゝ姫うんとをつゝ

のひとりしへ人がまは
此書をゑてこゝにいれ
けめとをもつて学者か
りるまゝ

寄のこゝろ
寄の上るとるしゝ民
ゝ藤原にとゝろきこ
こゝろもこゝと寄をと
ゝてひうとけう
ゝかゝゝもしゝえ
イこひかゝゝ
ゝこゝをかゝと
ゝへのひさゝ

なるひやゝよいこうちうちんゝ
人のひゝこゝ
もうれゝ
ゝるハれう
このひゝ
ゝげ白きこ
きいえゝ
寄のゝと
ゝるわれ
ゆゝこの
てやこわ
ゝもし

為合せいれと
寄合能人なるけやう
とけうもし 戦ゝあ
らゝゝ

ゝゝゝ我ゝ
我ハ人ゝ
賢ゝゝゝ
ゝけゝゝ
ゝゝゝ
ゝゝ
ゝゝ

輩也又相助匿非為黨
[illegible]
[illegible]
[illegible]

さこうりをきこえる
事はりしかハ
ほかの紙に命のべる
と申されそれは
いとせつなくも
わるられハ寿命経も
えらくまぐれかこと
おかほかハ白く清ら
ある紙小壁しりを
ついしは紙といふ
れハ命のべるあぐこと
みもうるまぐきこの。
寿命経ハ近命の初
清の経あれハ
ひけるくとうこと
細流ふりけてけさんも起
れハもしの。掛長
キヒクモカレコキ宣命の
ひしと。寿のふい紙を
神ーうてしびりこの
うしにる事もはんと

をきしうる事あるしハばうんわるがれ
ハ寿命経をえくやうぐるかこと
作れるとおりぬけふひこてもり
つる事をかがしをうせをうるるハあを
ぬ事ハあぐわるやぬふとそれてけいを
べきうこもかれハぬて
かけるくとかこきうみのきるーかい
はるれようひるまりねぐきう邪
おやりゆやとけいせるをくとてまつ
せりたんぶりどうーぐ性使ふハ来
るおんをきひとくあぐぐとうせるる

せぬるれるる紙を
れハけるくもうぐ
けるーというと
あるりかやあるり
実ハうるうきふやと
しうる
ぬもはりのるんふ
事ぐうくあれるる
るるんー

作者とハふるみ
貴人ハきるーあ
とうるる
心のうちよハさるやけん
あるれるうとはう
ハ心ハこのーとる

ぬるのうるるに山ハみをはうしにくるとて。
てさうぐにむつうき事をとすぐるし心
ちるくおうるうるハうるもるはゆ二月
ハうるるるて。おうぎねきるる男のて
みをうるてきてこれとうおれハ誰ぐ
おるハるるぐねるるるるハるるハぐう
をきくいねぐはるることるるとるれハ
ハるるるるるるるれれハるとる
に作者といふるれるるるるるるらハ
あるいるるるるるるるるるハはるみや
おんんとはりんるるるるるるるるるる
るる出るるるるるるるるるるるるるる

又ひとりまうん
これへまゐりまする事
にあるべしといいんと
まれにかりふあるい事
左衛門督殿
同うじ四郎殿
御ぬのやのわざいせん
ど左衛門の尉殿
らんとも
ひとりまうんあり
ほかのかりぬまうとて来
うし事と左衛門
殿心ざしのと同りやう
ことゞし
殿のまうやうきこえ
左衛門の尉殿
氣色ハえもりぬやと

あやしげもわくどはひとりあるべ
ひとりまうん
又ひとりまうんあるべ
まうまうつ
るよ殿
殿のわざいせん
ぬりおり
ひとまうん
おるり
おるり
ひとりまうん
殿
殿
殿

はるのこと

はるのるあめの
彩雲今雅上は叢泉
院院時はおろそ 鶯
彩成梅花とうるゆと
とあるを京野別注
作花のるゆと
花の白ひうぐ作きる
うとうぐ
花のあきて百ひ
とりて毎月報知る
山の梅花とよめる
なるべし
こゝろうぐいるの
小家どもとうぐちて
こゝ二年の文と儀よ
はるれるれいと

ら去ふおうしうげよはるうるよみとり
ぐめてきのようけるあやうぐ作ひらひ
師子こ白犬あぐいりりぐゆや入ねんと
たりきぐ梅乃一丈ぐうわくいうぐ咲
ぐやうるくぐみうりりあれぐと
ぐうぐきるうるぐ梅二月朔日ゑれと今ぐうりあ
めれとえゆるはるうるあやうすぐく花
乃白ひうぐ作きるうるゆうすぐいうる
うるきりりうんあうぐ作花ゑれいと
えるぐは白きぐこいくぐいるあれおか
うりくるぐあゆをとうるせるえれば作ぐちる
どのえあるはうるぐるぐくあのくあ

けうぐおうりげある。敢乃ぐるせるうりぐの
乃乃はあるれはあ
みけうくはあれど
なるうげうるうるる
只あるをにうるれう
直衣と直衣布袴と
て下袴を用るうう
はれどぐそはは真衣斗
あれはあるは
しうこうんはうこうん
紋立紋也イ本
うんはうこうんうぐうわ
はは八疋とはみけうを
うふあうわきぐあうら
ぎあきるれはうこ

うぐけ

兄家にはむとやうにしはしとよき家にはみどもうとくうとくしてこそ
ゆうりつくひとよの心陶冶明彭沢乃令とかりしかさるう一力をまうてひはりとと書よ云今遣此力助汝薪水之勞此亦人子也可善遇
とこそこの心まくに関白のものしるやいとくしるものりケせきをのふとして石宮をけらくのふ関白ごのくさりれしお作よ石宮にはいかはよ命くケすどのりし事をゆくくこそよ山法さなみれをうるゆづ

ん逸どそこるこそいとうやのーこれ一人わるきさんやこれ是家ごのむとやどしあれやくくのりくくこそうさまくくせのくめさてもさいかの乃内心をいかの知
いやくくありケせきをのふとして我ハいるせきひくよりいけうはよまつれどまるるのりくのれうーのねどのりさうたのものるるのりくのふがりきこえんあどのふがりきよケかんくわひぬきくくどをこまりくくく

殿ばらのかうばしいろ
左宮の御香のきはを
ゆみのいろとも
行ひとしたち
左衛の佐あり
家麗ちんと、え雅
量とのもとこ、おな
里人なわづらはのぐ
ばやとそる肩尾
あつきしゆうとせの
我まれ内れ名とも

三の院さんいとこ殿
殿下の二女左衛の佐
姉。淨更殿別当る
べし。拾芥抄に淨更殿
在貞観殿中。以上藤
女房寄別當

よかせまつがの院ばらのおとゝ白
る。殿かうしもをつかまつる人
いあんやあんとぐ口切きの
まして。殿の院ばらのくられ袁きね
左衛の佐使のうら
女のさうぞくにて梅のわうあづえ
ちの院ばらのどあれば
あ、えゆるさせまつとた紙えどのもと
やてうちわ。関白よりの書状
じまいとくごうぜいの院ばらをとし
ときまつ。こ乃院ばまつはみてげ殿
中のひめ君よりもおわきさまとまて

白ひかり
細長おな上 貴女の服
内侍よりの書状
内侍よりたまはりけ
左衛の佐使のうらの供を仕まつるの心
白
関白よりの書状
内侍
そも殿下の二女左衛の佐殿
白

うへうきこえんみぐよりのうへもわ
三の天ゐのきこえ
しれば。うほうとう
ゆ。ものこゝろ
ひぶせきのうち
新参の内にて小の
乃天ゐのさうぞく
の月のさうぞく扇
女房なりの一切経供
宮乃月出ちる扇
等の法会する
九ハ内の人あんとまて
てを あのわふいどんく
一向にもをつかはう
よりまつ。我ハ内の用を
せんとゐのうへとゝ
てやゆて法師せの心
うり
あれすにはまつれハ
尚々の用をのこ小退
出すれば左衛も出
たまへとゝ

関白殿の御方
新参の女房ハ御方ゝ
内侍
里殿へ退出
内侍

うへうきこえんみぐよりのうへもわ
ぶせきのうち
新参の女房ハ御方ゝ
内侍
ぶせきのうち
内侍
もとゝ
よりまつ
と清涼殿
里殿へ退出
内侍
ぶ。
母上
ず。うへ
ひめきみ
えぶ
あ、
内侍
内侍
内侍

あきくわのれんうたは
拾遺集 ゆうづくる夏
うねれるをえれを
あきくわのれん人う
こひしき

まぐろうんまれと
作花うあらばそ換
じくえみうんとを
出て人えぬぐふれ
と作者わうを

ゆぐうまつる。庄おの(みつうえ)採(とり)えはまさこで
月のごよあくちてちがけうちうあるば
小作(ちいさく)きふ面の春るうちうるぼとめて
(あらうあらうあらう)
いみじうひとくせ(ほかし)いとくれきて。あきて
(ほかし流冷)
うれんうわよをちこうすれといふを
(あか)きりせうひくぐふあれくそひたつる
(横ふとうしとの)
ぐうーぷうあくんとてなどうをせうよ。殿
(作者井人)
のはううちうひのとのごーげとる
どまてぷおまるこれのうとよとでちうう
ちうてぷふをちとうてみうふいきて。
まぐうくんまとれとこうあうせられ
はきぷあけるうちうぷびんあるわざう郡

いとかうくて。花のあ
くちうしをとうさきさ
うふを感どるる。
くくいくうんとうひすみ
うすべをひくくくや
ほ撰。山ちはいくぐて
うんうる彩のちの(乃)稀
ちりてくくんぷそく
素性乃うの(こ)兼沈の
集くくもけうく可熟(こ)
はうれ又を宮して
人はとぐしくくもちん
とてふふをーゆく
くの風(こ)
かねすみ。庄兼沈や
信明(カネアキ)乃息。寛和の比乃
人うう

くくくく

と作せるおうぎぬとべありといふ
ありつるハ粉稜などをすこしあるや
とこそうきつれ。ぐさつるぐ。ぐ川やと
作るさしたるすいかぐ。いかぐ。こそてとく
もこんたるぐわつるをぞろこそる物の
なれぐ。ぐ。ぐをあるやとこそうめき
よりたつるとすさわ。ぐ。ぐいる
ぐ。ぐ。ぐとこんぞのくさせるあるわと
でうとこそうせるへぐでよりたるじ。美風
くわこそせるへぐでよりたるじ。美風
乃ちくたるちんとけいとるとかくいえん
まぐのせとこそうとあるくぬとるすいわで
あるのちわくよこそうあるのあるくらじゆんのあるあるつれと作るもも

ぬ作せるのけといふ
ぬるのけとのけ
ぬるのけとのけ
ぬるのけとのけ

[illegible]

文乃はおようらえをせのつるめでゝ。
[illegible]
[illegible]
[illegible]

りのあいて一ぬ上蔵
三人とはかりと
てうらうて　押鬱也
てうぐうりてしべ
おりて〜女車する
ぜうのとりつよ　車の
なれりどのなるよ
ばりりりとりつよりぐ
らふのでえてとはが
うどの美てる
云日　中云大史小
てうせんとのせんとりる
得選　三人ありてう
禁秘抄云凡於車寄
乗車女房近代例也
況得選不可然事也
行幸走内侍同車時
聽之近代事也
服きてうおりりり
はかのりりばとてうせんを
のせてとりふがえれる
てとりりよ仰れりど

つみてうるてうせてんで笑ひ合てとてる
まんりわをうりてはひのり果て出く
れんりりりとりつよりてこてうとりりて車ば云日
よりきて強てうちとすると同ゆてりとあれ
りりりる車小今は皆のりぬんとうと
ーりりり

一乘院文庫

初どく　殆ホトンドし

ゑづーがいとかーがりて
伊勢より笑止がりて
車ふのせーとし。およみ
つゞ車るあれば大とい
とうきとうとう首尾し
又ゑづーの八心ちぐーんねと
うとうとうる

心ちーねねこう制する
ゆゑもを立せる。萬
ちどいさやうゑづーるふ
栄車するを制せよ
うとし作ーるとし
うとうのんようとやらん
此大馬が何を侍者
の女房をみゝゃんと
侍りのさくるる。おふ
侍りの名文の出るよ
とくくしりさぐー
首尾。侍者のを
立やうーん。るのてんと
車のおれ立ばのごく
白りんこうようと

人ハ人ぞ。とくハ。ちり侍んぞしもゞどくえ
のるちどーゞ侍ると。ぞーがいとかーがりてゆづり
侍ーる。ぞくーう侍ーるとこう侍ーうれと笑わ
みーけいとるよ。行ーする。ものいとあれ。きぞ。
又ゑどーの八心ちーざーんねとうとうる。うちとんか
どハいへうゑづ侍ーる。ぞれどいとうとうとうとさき
車ーるのとと
立侍ーんゑづいふとぞーとうのんとうとやらんと
車ーるのとと侍ーるとし。侍者の出侍ーるよ。主ちり。車車のさちり
車ーるのとと侍ーるとし。侍者の出侍ーるよ。主ちり。車車のさちり
きこゆ。さるあちーてかくのちーうんしかとる
さいうーうんうんと
べき車ーるハ。ぞーめーうんさるのやんとあうーん
侍ーるとし。侍者の出侍ーるよ。主ちり。車車のさちり
こうとうーめとゆーげよ心ちーちり。なり侍ーる
侍ーるよりゆーりのえーさにんを侍ーるとえ車車ちーうんとし
りの侍ぞーるとうーきとうとわーてーるやと
ぞーとあるとす

春曙抄十終

国立公文書館
National Archives of Japan